



2月の園だより

学校法人志賀学園
久之浜こども園
令和8年1月30日

厳しい寒さの中でも穏やかな陽だまりの中に水仙の花が咲き始め、小さな黄色い花びらが心を和ませてくれます。少しずつ春が近づいてきていることが感じられます。

今月は園生活も残り少なくなってきた年長さんの生活の様子をおしらせします。毎日のように、ビオトープに氷が張り、子どもたちは毎朝興味津々で氷を見にいくのが日課となっています。「今日の氷は4センチだった!」「メダカが凍らなくてよかったです!」等の会話が聞かれます。そこに小さいクラスのこどもたちも集まってきて楽しそうです。また、ベランダで子どもたちが数人集まって♪シドレーシソーラソソファフア…♪と『小さな世界』を階名で口ずさみ、ちょっとしたアカペラの演奏会が繰り広げられています。このようなあそびの積み重ねがハートフルコンサートでの発表に繋がっていきます。さくら組のお部屋では、私がお習字のお稽古に行く時間を持ちながら、クラス全体でひとりのリレーをしていました。自分の番が来ると、「リスト→すいか→カメラ→ラクダ→だるま」と順番に単語の最後の文字と最初の文字を考えながら遊ぶ姿に、語彙力の増えていることを感じ、何気ないあそびから成長の様子が伺えました。
2・3・4・5歳児は、風のない日には園庭でラジオ体操とかけっこをしています。0・1歳児も気温が上ほど寒くない限りは、園庭に出て遊んだりお散歩に出かけたりしています。
『こどもは風の子』みんな寒さに負けず、元気いっぱい健康な体つくりを目指しています。

2月3日は節分です。『節分』と言いうのは季節を分けるという意味があり、立春、立夏、立秋、立冬、それぞれの前日を節分と言います。本来は一年に4回あるものでしたが、現在では省略され立春の前日を節分と言っています。

節分の起こりは古く、706年、文武天皇の頃に厄病が流行し農作物も不作が続き多数の死者が出ました。そこで天皇は国民の安寧を願い、悪い病気や不作は鬼の仕業として、豆をまいて鬼を追い払う追儺式を行なったのが、豆まきの始まりと言われています。数え年の分(年齢よりも多く)、豆を食べると病気をしないと言われています。昔から豆には穀物の靈が宿るとも言われており、栄養満点の炒った大豆を食べる習慣になっています。ただ、最近は消費者庁から5歳児以下の子どもには誤嚥のリスクが高いということで注意喚起が出されており、園では鬼の絵に向かって豆まきをするだけで豆は食べません。お家で豆を食べる場合は十分気をつけてください。また、豆がらにイワシの頭と枝の葉を刺した『ヤイカガシ』を入口に飾る習慣があります。これはイワシが臭いので鬼が嫌い、枝はとげがあるので鬼が恐れて家の中に入らなくなるためだと言われています。園でも玄関に飾りますのでどうぞ親子でご覧になり、ヤイカガシのいわれや心の中のどんな鬼を退治したいのか話し合ってみてはいかがでしょう…!